

笠間市社協 宍戸支部だより

第 128 号

令和 2 年 12 月 10 日発行

発 行 笠間市社協宍戸支部長
雨谷 高市
編 集 宍戸支部広報委員会
印 刷 大塩企画

優しさと いたわりで築く 福祉の輪 —福祉標語入選作品から—



第 38 回高齢者グランドゴルフ大会開会式

（支部長あいさつ）
「特別な夏・忘れられない夏」今年の夏は、全ての方々の生活がコロナで一変しました。子供たちは、夏休みが二週間程度に短縮され、かつ、海水浴、プール、家族旅行など、夏休みにしかできない楽しみがなくなりました。
コロナが子どもたちの心にどのような影響を与えたか推し量ることはできませんが、生涯で最も印象に残る夏の一つになったことは確かだと思います。
かく言う私も感染症の怖さを現実の形で経験したのは初めてですが、一つの感染症による人類への影響力は極めて大きいものがあるようです。
約百年前に世界的に流行したスペイン風邪では、日本においても約三九万人が死亡しています。また、第一次世界大戦の終結を早めた原因の一つとなったと言われています。
社協宍戸支部の歴史にも、今年は「特別な年、忘れられない年」として記憶されることになるでしょう。今後、コロナの状況がどのように変わっていくか想像することはできませんが、おそらく、多くの事業が実施不可能のまま年度末を迎えそうです。
そういう情勢の中で、支部だより128号からその体裁を大きく変えることとしました。これは、コロナの影響下での見直しではありませんが、結果として「特別な年」を予想して変化をもたらしたのかも知れません。体裁ばかりでなく、内容にも変化を求めていく所存です。
雨ニモマケズ、風ニモマケズ、コロナニモマケズ。
（令和二年九月二三日記す）



8月7日撮影。この日の最高気温は 36.8 であった

わが町発見

宍戸駅探訪

宍戸駅は、笠間市大田町にある東日本旅客鉄道（JR 東日本）水戸線の駅です。明治 22 年開業当初は大田町村にあったため太田町駅と命名されましたが、三カ月後に宍戸町が発足し、駅名も宍戸駅に改称されたそうです。

昨年是一日の乗車数が平均 336 人。駅舎がホームに対して直角に立地する珍しい駅です。今年の 3 月 16 日から 4 月 7 日の間は無人駅でしたが、今は笠間市における簡易委託駅になって二人の駅員さんが交互に常駐しています。今回は、駅員の木内さんにお会いしてお話を伺いました。

（質問）ホームの嵩上げ工事がありました、評判はいかがでしたか？

（お答え）とっても良いですね。特に高齢者のお客様が、乗り降りが楽になったと話していました。それと、便利と言え「suica 改札機」の設置がとても役に立っています。夏は、駐輪場の常夜灯にカブトムシが集まるので、昆虫採集で楽しむ人も居るようです・・・



終始にこやかにお話
頂きました。ぜひ、明
るく見晴らしの良い宍
戸駅のホームにお出
かけください。……
（編集委員）



毎月少数人数で三日間のお弁当作り 女性部長 小菅 栄子

コロナ感染が騒がれ始めたのは二月頃だったと思います。感染力が早くて強くボランティアも大勢では集まれなくなり、毎月行われていた一人暮らし高齢者への配食活動は三月から中止に。市社協の配食も中止になり、高齢者への配食は全くなりしました。そのような中で、宍戸支部では月一回でもお弁当を届けてあげたいと三密を避けながらの活動を心がけ五人体制の少数人数で三日間お弁当を作り、ごぶしの会の方たちに届けてもらう方法で六月から再スタートし、今年度いっぱい此の体制で行う事にしました。
一日も早く、皆で楽しく活動できるよう願わずにはられません。



お知らせ「あなたが写す宍戸の景色」

表紙の写真を募集しています
宍戸小学校通学区域内の風景や催しがテーマです。下記要領にて、ぜひあなたの写真をお寄せください。
○提出方法…郵送（〒309・1738 笠間市大田町 410 安達正男（編集係））
○締め切り日…令和 3 年 4 月末日
○応募規定…キャビネ版にて、住所と連絡先をご記入の上、お送り下さい。宍戸市社協運営委員会にて選考いたします。掲載の決定後、担当が映像データを頂きにまいります。（なお、採用された方には粗品を用意してございます）

編集後記

この「支部便り」が今回で 128 号になりました。表紙の誌名は米川喜三（香庵）様の揮毫（きこう）による書をそのまま継承しました。また、カラー刷りに変更したほか、ページ数が増えたためレイアウトと字の大きさを変えて、より見やすく致しました。

今後も地域の福祉の向上に軸足を置いた内容に心がけて参ります。記事の掲載、情報のご提供等、ご協力の程をぜひよろしくお願い申し上げます。

編集委員



安達正男 小川 福子
羽生 力 中塚久美子

「地域と共に歩み続ける学校として」



茨城県立友部高等学校

校長 海老沼 正



皆様には、日頃より本校へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本校は昭和53年に開校し、今年度で43年目を迎えました。これもひとえに皆様方のお力添えのおかげであり、感謝申し上げます。

さて、今後、本校は大きく変わっていくことになりましたので、その概要についてお知らせいたします。

本県では、高校が果たすべき役割として、地域の人財を地域で育成する「地域の中の学校」や新たな価値を創造する「起業家精神の育成」などが求められております。そのような中、我が国では情報化が急速に進展しており、実践的な情報活用能力や社会の諸問題を的確に分析・解決できる能力を身に付けた、IT分野で活躍できる人財の育成が急務です。

そこで、本校は、令和5年度より現在の全日制普通科を単位制の定時制情報科に改編し、大学や研究所等と連携して、専門性・実践力を高める教育に取り組んでまいります。定時制として午前部と午後部の2部を設置しますが、これにより、遠方からの通学や放課後の大学等での学修やベンチャーの起業等も容易になります。なお、全日制と同様に、3年間での卒業も可能とします。

本県や日本を背負って立つ優秀な人物を当地から送り出すことができるよう、努めてまいります。皆様方には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



第37回入賞者

男性の部
優勝 中野光一 37
準優勝 相場正男 37
三位 船橋孝一 37

<同点のため年齢順>

女性の部
優勝 中村みとり 37
準優勝 和田博美 37

<同点のため年齢順>

三位 飯田正子 41

<三位3人同点のため年齢順>



GROUND GOLF in 北山

コロナ禍による各種イベントの制限が解除され、待ちに待った宍戸地区高齢者グラウンドゴルフ大会が開催されました。(第37回6月9日、第38回10月14日) コロナの影響で練習もままならず、久々のプレーに皆さんの歓声が北山に、こだま“しました。支部事業も多くの行事が中止となる中、唯一の事業であり今回は男女とも10位までの表彰となりました。



37回大会入賞者の皆さん



38回大会入賞者の皆さん

たずねてみたら

末廣稲荷神社奥の院

深澤 剛

私の小学校時代の神社は、木造の拝殿と本殿でお祭りごとに上級生とお札配りをし拝殿に泊ってあがりをつけてもらいお小遣いにした記憶があります。奥ノ院は深澤家名義の地に建立されています。祖父清三郎兄弟が建て寄進し、家に記念品(火ばち)がありました。いつ頃行ったかはしりませんでした。ここ数年痛みが激しくなるばかりで気になっておりましたが、現在は公の物地域全体での再建がベストと考えていましたが、祖父が行った事業でもあったので総代・氏子世話人の了解が得られれば修復工事に着工したいと思い本年二月九日の初午祭りの折に経緯と考えを話し了解を得ることが出来工事を始めることにしました。

業者は親交のある菊池喜男親子に依頼し三月四日に着工しました。工事を進めてみると悪い箇所が多く出て来て全体の八割の部分を新しい物に変えました。奥ノ院の内部がどの様になっているのかも知らずに始めましたが、中に内宮があり、大鏡や数多くの稲荷神社に関わる品物があり、松平家が金毘羅宮へ寄付した領収証等がありました。私はいつ頃寄進したかしりませんでしたが、大鏡の後に昭和十一年四月一日の日付と祖父兄弟の名が記されてありました。八十五年を経過し、私



感謝状とともに深澤さん

が再建できる喜びを感じながら菊池親子の献身的な作業を目にし、すばらしい出来栄が進んで行く約五ヶ月間毎日心待ちしておりました。七月九日完成式が出来、ほっとしました。これからは拝殿の傷みも激しいので地域の皆さんと力を合わせ神社全体の整備が出来ることを願っています。

最後に末廣稲荷神社は「子供を守る」神社として崇拝されてきた「子供みこし」があり夏祭りには子供を中心に祭事が行われて来ましたが。現在は少子化の問題で運営の難しさが出ていますが、「やり方」を工夫し末永く実施されることを望みますし、地域のシンボルとして諸活動の柱となつて活性化がされれば幸いと思います。全体再建については、地域の皆様の絶大な協力を得たいと願っています。

(話題募集) 身近で起きた楽しい話題は広報委員へ。
☎090・6120・2154 (安達)



コロナによる支部行事の中止相次ぐ

令和2年が明けて間もなく蜂起したコロナ禍によって、世界中が大きな混乱に陥りました。最初の内は「アレッ地球の裏側でもマスクしているんだ!」「戦争している国までやってくるよ!ヘーエ」などとテレビのニュースで、日本だけでないので驚いたの思い出します。



私たちの宍戸支部も、三密の集会やお楽しみ会、バザーや体験学習までもが中止となつて、多くの行事が見送られる結果となりました。誰が悪いと言う訳ではありません。そういうことになってしまった訳なのです。できた行事は、女性部の「手づくり会」、屋外活動の「高齢者グラウンドゴルフ大会」と「配食活動」だけでした。早くコロナ禍が収束して、できなかった行事の復活を願いたいものです。



これまでの支部社協広報誌はこちらから

https://www.kasama-syakyo.jp/local_magazine/